

東海大学教職課程履修者の教師観・教職観 2

—— 3 年次生を中心として ——

大島 宏

はじめに

社会的にも厳しいまなざしが向けられ、また変化への対応が求められる教育状況の下で、教員免許状を取得しようとしている大学生は、教師や教職の仕事をどのようにイメージし、あるいはどのように意識しているのだろうか。本稿は、このような問題意識に基づいて、東海大学の学生を対象として行ったアンケート調査の結果にもとづき、教職課程を履修している 3 年次生の教師観や教職観を明らかにしようとするものである。

なお、今回対象とした 2010 年度の 3 年次生に対しては、1 年次（2008 年）にも同様の調査を実施し、調査の趣旨と調査結果の概要を『課程資格教育センター論集』第 8 号に報告したので参照されたい¹⁾。

以下、自己認識、教師に必要な力量観、教師イメージ、教職の魅力度と教職への志望度についてのアンケート結果の概要を報告する。

1. 調査の趣旨と概要

表 1 回答者（3 年次）の状況

	男	女	合計	3 年次履修者数
文学部	64	52	116	128
政治経済学部	14	1	15	18
法学部	7	1	8	9
教養学部	12	13	25	27
理学部	64	18	82	91
情報理工学部	4	0	4	4
工学部	13	8	21	21
体育学部	145	99	244	276
健康科学部	1	6	7	8
情報デザイン学部	1	0	1	1
合計	325 (62.1%)	198 (37.9%)	523 (100%)	523 (100.0%)

アンケート調査は、東海大学湘南校舎（伊勢原校舎・代々木校舎を含む）の教職課程履修者を対象として、2010 年 1 月に実施した教育実習事前指導の際に実施した。

2010 年度の教育実習事前指導の対象者は湘南校舎 617 人、伊勢原校舎 8 人、代々木校舎 1 人の合計 626 人であり、このうち回答者は 561 人であった。

ただし、教育実習事前指導は実習校における本実習の前年度に受講することになっており、受講者の多くは3年次生であるが、4年次生や科目等履修生の受講者もいる。3年次生に限定すると、履修者は583人、回答者は523人であり、回答率は89.7%である。回答者の所属学科および性別は、表1の通りである。

なお、本稿では、回答状況を示すにあたって、回答者全体の状況とともに、課程認定された免許教科によって学生の所属学科を「文系」（社会〔高等学校の地理・歴史、公民を含む〕、国語、外国語〔英語〕、音楽、美術、福祉）、「理系」（理科、数学、情報、工業）、「体育系」（保健体育）に分類し、それぞれの集団の結果も提示しつつ、比較を試みたい²⁾。

2. 自己認識

表2-1 回答者（3年次）の自己認識

(N=523)

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	不明・無回答	肯定者 (肯定率)
①責任感	207 (39.6%)	290 (55.4%)	25 (4.8%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	497 (95.0%)
②研究心	76 (14.5%)	303 (57.9%)	133 (25.4%)	15 (2.9%)	2 (0.4%)	379 (72.4%)
③リーダーシップ	88 (16.8%)	261 (49.9%)	158 (30.2%)	15 (2.9%)	1 (0.2%)	349 (66.7%)
④勤勉性	173 (33.1%)	263 (50.3%)	78 (14.9%)	7 (1.3%)	2 (0.4%)	436 (83.4%)
⑤社会性	145 (27.7%)	247 (47.2%)	121 (23.1%)	10 (1.9%)	0 (0.0%)	392 (74.9%)
⑥好意的感情	182 (34.8%)	269 (51.4%)	66 (12.6%)	6 (1.1%)	0 (0.0%)	451 (86.2%)

アンケート調査では、教職課程を履修している学生たちがどのような自己認識をいっているかという観点から、(1)「自分の役割や責務を果たす責任感」(「①責任感」)、(2)「未知・未解決のものを探究する研究心」(「②研究心」)。(3)「人やグループを指導しリードする力」(「③リーダーシップ」)、(4)「辛いことにも耐えて努力する勤勉性」(「④勤勉性」)、(5)「人のことに積極的に関わりをもとうとする社会性」(「⑤社会性」)、(6)「子どもや中高生に対する関心や好意的感情」(「⑥好意的感情」)の6項目についての自己認識を、「とても強い」「やや強い」「やや弱い」「とても弱い」の4段階で尋ねた(問6)。全体の回答結果は表2-1の通りである(「肯定者(肯定率)」は「とても強い」と「やや強い」の合計)。

3年次生の回答者全体の肯定率を見ると、全体としては、「①責任感」があると認識している学生が95%を超えている。また、「④勤勉性」と「⑥好意的感情」でも8割を超える学生が肯定的に自己を認識している。さらに、「②研究心」と「社会性」でも肯定率が7割を超えているほか、最も低い「③リーダーシップ」でも肯定率が6割を超えているように、これらの項目に対する自己認識は全体として高い傾向にあるといえる。ただし、肯定の状況を見ると、すべての項目で「とても強い」よりも「やや強い」の選択率が高い。

ところで、学生の自己認識は、免許教科による3つの集団で異なるのであろうか。表2-2の①から⑥は、免許教科による3つの集団ごとの自己認識への回答状況を示したものである(いずれも不明・無回答は除く。また、「肯定者(肯定率)」は「とても強い」と「やや強い」の合計)。

4つの選択肢の選択状況を見ると、3つの集団ともにすべての項目で肯定率が高いことがわかる。また、全体の傾向と同様に、すべての項目において、肯定的評価のうち「やや強い」の選択率が「とても強い」の選択率を上回っており、どちらかといえば消極的な肯定評価であると思われる。ただし、「①責任感」に限っては、他の項目よりも「とても強い」の割合が高いことは特徴的である。なお、4つの選択肢の選択状況についてカイ二乗検定を行った結果、免許教科による3つの集団の間に有意な差はみられなかった。

一方、「とても強い」と「やや強い」を合計した数値(肯定率)をみると、「②研究心」では理系が、「③リーダーシップ」と「④勤勉性」では体育系が、他の2つの集団と比べてやや高い傾向がみられる。このうち「④勤勉性」については、カイ二乗検定の結果、体育系と他の2つの集団との間には、5%の水準で有意な差がみられた(p値0.0488)。

表 2-2 自己認識（免許系列別）

①責任感（p 値 0.5702）

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	肯定者（肯定率）
文 系（n=165）	70（42.4%）	87（52.7%）	8（4.8%）	0（0.0%）	157（95.1%）
理 系（n=114）	46（40.4%）	62（54.4%）	5（4.4%）	1（0.9%）	108（94.8%）
体育系（n=244）	91（37.3%）	141（57.8%）	12（4.9%）	0（0.0%）	232（95.1%）

②研究心（p 値 0.9427）

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	肯定者（肯定率）
文 系（n=165）	23（13.9%）	97（58.8%）	42（25.5%）	3（1.8%）	120（72.7%）
理 系（n=113）	18（15.9%）	69（61.1%）	24（21.2%）	2（1.8%）	87（77.0%）
体育系（n=243）	35（14.4%）	137（56.4%）	67（27.6%）	4（1.6%）	172（70.8%）

③リーダーシップ（p 値 0.6180）

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	肯定者（肯定率）
文 系（n=165）	27（16.4%）	78（47.3%）	56（33.9%）	4（2.4%）	105（63.7%）
理 系（n=113）	17（15.0%）	54（47.8%）	37（32.7%）	5（4.4%）	71（62.8%）
体育系（n=244）	44（18.0%）	129（52.9%）	65（26.6%）	6（2.5%）	173（70.9%）

④勤勉性（p 値 0.0587）

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	肯定者（肯定率）
文 系（n=163）	49（30.1%）	84（51.5%）	28（17.2%）	2（1.2%）	133（81.6%）
理 系（n=114）	28（24.6%）	61（53.5%）	22（19.3%）	3（2.6%）	89（78.1%）
体育系（n=244）	96（39.3%）	118（48.4%）	28（11.5%）	2（0.8%）	214（87.7%）

⑤社会性（p 値 0.2993）

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	肯定者（肯定率）
文 系（n=165）	54（32.7%）	71（43.0%）	37（22.4%）	3（1.8%）	125（75.7%）
理 系（n=114）	24（21.1%）	61（53.5%）	25（21.9%）	4（3.5%）	85（74.6%）
体育系（n=244）	67（27.5%）	115（47.1%）	59（24.2%）	3（1.2%）	182（74.9%）

⑥好意的感情（p 値 0.2988）

	とても強い	やや強い	やや弱い	とても弱い	肯定者（肯定率）
文 系（n=165）	57（34.5%）	88（53.3%）	17（10.3%）	3（1.8%）	145（87.8%）
理 系（n=114）	31（27.2%）	67（58.8%）	15（13.2%）	1（0.9%）	98（86.0%）
体育系（n=244）	94（38.5%）	114（46.7%）	34（13.9%）	2（0.8%）	208（85.2%）

3. 教師に必要な力量

教職課程を履修している学生は、どのような力が教師に必要なと考えているのだろうか。アンケートでは、次の16の力量項目を設定し、重要だと思われる順に1位から5位まで選んでもらった（問7）。

- ①わかりやすく授業を展開していく力（教材のくみため、話し方、板書など）……………（授業力）
- ②子どもの学習状況、悩み、要求、生活状況などを適切に把握する力……………（把握力）
- ③子どもに積極的に関わっていく態度や熱意……………（積極的関わり）
- ④子どもの資質、適性を見抜く力……………（見抜く力）
- ⑤子どもの思考や感情を触発し、発展させる教師の表現力……………（表現力）
- ⑥子どもの集団を把握し、まとめていく力……………（集団把握力）
- ⑦子どもの問題や学校の問題を広い視野から見ることのできる度量の広さ……………（度量の広さ）
- ⑧つねに研修、研究に励む能力……………（研修能力）
- ⑨必要に応じて、子どもに対して毅然たる態度をとることのできる強さ……………（毅然たる態度）
- ⑩芸術や文学に対する豊かな感性や理解……………（芸術的感性）
- ⑪同僚と協力しながら教師集団の質を高めていく力……………（同僚との協力）
- ⑫教科書の中の教材をさまざまな角度から取り上げ指導する力……………（教材指導力）
- ⑬教育に関する諸問題を自分なりに筋道を立てて論理的に考えることのできる力……………（論理的思考力）
- ⑭教師自身の体育、音楽、図工などの実技能力……………（実技能力）
- ⑮学校運営全体の中で自己を位置づけ、その立場から考える力……………（自己の位置づけ）
- ⑯教育の実践的問題とは直接関係ないが、自分にとって関心のある学問や研究を深めていくこと……………（学問研究）

表 3-1 教師に必要な力量

(N=523)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	合計
①授業力	157 (30.0%)	86 (16.4%)	96 (18.4%)	49 (9.4%)	49 (9.4%)	437 (83.6%)
②把握力	69 (13.2%)	100 (19.1%)	69 (13.2%)	67 (12.8%)	32 (6.1%)	337 (64.4%)
③積極的関わり	157 (30.0%)	74 (14.1%)	56 (10.7%)	50 (9.6%)	31 (5.9%)	368 (70.4%)
④見抜く力	43 (8.2%)	73 (14.0%)	57 (10.9%)	41 (7.8%)	31 (5.9%)	245 (46.8%)
⑤表現力	30 (5.7%)	34 (6.5%)	53 (10.1%)	51 (9.8%)	46 (8.8%)	214 (40.9%)
⑥集団把握力	13 (2.5%)	48 (9.2%)	32 (6.1%)	42 (8.0%)	37 (7.1%)	172 (32.9%)
⑦度量の広さ	11 (2.1%)	27 (5.2%)	42 (8.0%)	50 (9.6%)	42 (8.0%)	172 (32.9%)
⑧研修能力	13 (2.5%)	19 (3.6%)	17 (3.3%)	21 (4.0%)	57 (10.9%)	127 (24.3%)
⑨毅然たる態度	17 (3.3%)	18 (3.4%)	36 (6.9%)	40 (7.6%)	31 (5.9%)	142 (27.2%)
⑩芸術的感性	0 (0.0%)	1 (0.2%)	4 (0.8%)	7 (1.3%)	8 (1.5%)	20 (3.8%)
⑪同僚との協力	2 (0.4%)	8 (1.5%)	19 (3.6%)	34 (6.5%)	49 (9.4%)	112 (21.4%)
⑫教材指導力	5 (1.0%)	22 (4.2%)	28 (5.4%)	33 (6.3%)	49 (9.4%)	137 (26.2%)
⑬論理的思考	2 (0.4%)	4 (0.8%)	5 (1.0%)	8 (1.5%)	19 (3.6%)	38 (7.3%)
⑭実技能力	2 (0.4%)	7 (1.3%)	1 (0.2%)	15 (2.9%)	10 (1.9%)	35 (6.7%)
⑮自己の位置づけ	0 (0.0%)	1 (0.2%)	6 (1.1%)	7 (1.3%)	19 (3.6%)	33 (6.3%)
⑯学問研究	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	7 (1.3%)	11 (2.1%)	20 (3.8%)
不明・無回答	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	2 (0.4%)	6 (1.1%)

表 3-2 教師に必要な力量
(1 位の選択状況)

	文系 (n=164)	理系 (n=114)	体育系 (n=244)	合計 (n=522)
①授業力	62 (37.6%)	32 (28.1%)	63 (25.8%)	157 (30.0%)
②把握力	23 (13.9%)	13 (11.4%)	33 (13.5%)	69 (13.2%)
③積極的関わり	41 (24.8%)	31 (27.2%)	85 (34.8%)	157 (30.0%)
④見抜く力	16 (9.7%)	12 (10.5%)	15 (6.1%)	43 (8.2%)
⑤表現力	3 (1.8%)	11 (9.6%)	16 (6.6%)	30 (5.7%)
⑥集団把握力	3 (1.8%)	4 (3.5%)	6 (2.5%)	13 (2.5%)
⑦度量の広さ	3 (1.8%)	2 (1.8%)	6 (2.5%)	11 (2.1%)
⑧研修能力	3 (1.8%)	3 (2.6%)	7 (2.9%)	13 (2.5%)
⑨毅然たる態度	4 (2.4%)	4 (3.5%)	9 (3.7%)	17 (3.3%)
⑩芸術的感性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
⑪同僚との協力	1 (0.6%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)
⑫教材指導力	2 (1.2%)	1 (0.9%)	2 (0.8%)	5 (1.0%)
⑬論理的思考	2 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)
⑭実技能力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)	2 (0.4%)
⑮自己の位置づけ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
⑯学問研究	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)

※不明・無回答 (1 人) を除く

表 3-3 教師に必要な力量
(1 位から 3 位の合計)

	文系 (n=164)	理系 (n=114)	体育系 (n=244)	合計 (n=522)
①授業力	113 (68.5%)	75 (65.8%)	151 (61.9%)	339 (64.8%)
②把握力	78 (47.3%)	56 (49.1%)	104 (42.6%)	238 (45.5%)
③積極的関わり	84 (50.9%)	55 (48.2%)	148 (60.7%)	287 (54.9%)
④見抜く力	58 (35.2%)	43 (37.7%)	72 (29.5%)	173 (33.1%)
⑤表現力	32 (19.4%)	26 (22.8%)	59 (24.2%)	117 (22.4%)
⑥集団把握力	24 (14.5%)	21 (18.4%)	48 (19.7%)	93 (17.8%)
⑦度量の広さ	26 (15.8%)	16 (14.0%)	38 (15.6%)	80 (15.3%)
⑧研修能力	12 (7.3%)	12 (10.5%)	25 (10.2%)	49 (9.4%)
⑨毅然たる態度	27 (16.4%)	18 (15.8%)	26 (10.7%)	71 (13.6%)
⑩芸術的感性	3 (1.8%)	1 (0.9%)	1 (0.4%)	5 (1.0%)
⑪同僚との協力	7 (4.2%)	3 (2.6%)	19 (7.8%)	29 (5.5%)
⑫教材指導力	19 (11.5%)	12 (10.5%)	24 (9.8%)	55 (10.5%)
⑬論理的思考	4 (2.4%)	3 (2.6%)	4 (1.6%)	11 (2.1%)
⑭実技能力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (4.1%)	10 (1.9%)
⑮自己の位置づけ	4 (2.4%)	1 (0.9%)	2 (0.8%)	7 (1.3%)
⑯学問研究	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	2 (0.4%)

※不明・無回答 (1 人) を除く

表 3-4 教師に必要な力量
(1 位から 5 位の合計)

	文系 (n=164)	理系 (n=114)	体育系 (n=243)	合計 (n=521)
①授業力	140 (84.8%)	91 (79.8%)	206 (84.3%)	437 (83.7%)
②把握力	108 (65.5%)	76 (66.7%)	152 (62.6%)	337 (64.6%)
③積極的関わり	108 (65.5%)	77 (67.5%)	182 (74.9%)	368 (70.5%)
④見抜く力	83 (50.3%)	64 (56.1%)	98 (40.3%)	245 (46.9%)
⑤表現力	57 (34.5%)	50 (43.9%)	107 (44.0%)	214 (41.0%)
⑥集団把握力	55 (33.3%)	34 (29.8%)	82 (33.7%)	172 (33.0%)
⑦度量の広さ	54 (32.7%)	34 (29.8%)	83 (34.2%)	172 (33.0%)
⑧研修能力	35 (21.2%)	29 (25.4%)	63 (25.9%)	127 (24.3%)
⑨毅然たる態度	54 (32.7%)	30 (26.3%)	58 (23.9%)	142 (27.2%)
⑩芸術的感性	11 (6.7%)	5 (4.4%)	4 (1.6%)	20 (3.8%)
⑪同僚との協力	31 (18.8%)	26 (22.8%)	55 (22.6%)	112 (21.5%)
⑫教材指導力	47 (28.5%)	31 (27.2%)	59 (24.3%)	137 (26.2%)
⑬論理的思考	15 (9.1%)	11 (9.6%)	12 (4.9%)	38 (7.3%)
⑭実技能力	2 (1.2%)	1 (0.9%)	32 (13.2%)	35 (6.7%)
⑮自己の位置づけ	14 (8.5%)	6 (5.3%)	13 (5.3%)	33 (6.3%)
⑯学問研究	3 (3.6%)	5 (4.4%)	9 (3.7%)	20 (3.8%)

※ 不明・無回答 (2 人) を除く

表 3-1 は、教師に必要な力量に関する選択状況をまとめたものである。1 位から 5 位の合計をみると、「①授業力」を選択した者は全回答者の 83.6%であった。また、「①授業力」とともに、「②把握力」(64.4%)、「③積極的関わり」(70.4%) の 3 項目の選択状況が他の項目に比べて顕著に高い傾向がみられる。

表 3-2 には、1 位の選択状況を免許教科による 3 つの集団ごとに示した。これをみると、「①授業力」と「③積極的関わり」が 30%の選択率で最も選択されており、他の項目の選択率とも大きく異なっている。このことから、実習校での本実習を控えた 3 年次の 1 月の段階で、教職課程履修者の関心の中心が、授業と生徒とのコミュニケーションにあることを意味しているといえよう。なお、免許教科による 3 つの集団を比較すると、文系で「①授業力」、体育系で「③積極的関わり」が他の集団より選択率が高い傾向にあるが、カイ二乗検定の結果では 3 つの集団の選択状況に有意な差は見られなかった (p 値 0.1988)

表 3-3 は、1 位から 3 位までの選択率の合計を免許教科による 3 つの集団ごとに示したものである。これをみると、「①授業力」(64.8%)と「③積極的関わり」(54.9%)にくわえて、「②把握力」(45.5%)と「④見抜く力」(33.1%)といった生徒理解への意識にかかわる項目が高い割合でみられる。また、3 つの集団の選択状況が均質化する傾向もうかがえる。なお、カイ二乗検定の結果、3 つの集団に有意な差は見られなかった (p 値 0.2616)。

表 3-4 は、1 位から 5 位までの選択率の合計を免許教科による 3 つの集団ごとに示したものである。全体の状況は表 3-1 と同じであり、先に言及したので、ここでは免許教科による 3 つの集団の相違について検討したい。カイ二乗検定の結果、1 位および 1 位から 3 位の合計では 3 つの集団に有意な差はみられなかったが、1 位から 5 位までの合計では 1%の水準で 3 つの集団の間に有意な差がみられた (p 値 0.0031)。残差分析の結果、「④見抜く力」において、体育系の選択率が低い (5%有意)。また、「⑩芸術的感性」で文系の選択率が高く (5%有意)、体育系の選択率が低い (5%有意)。これは、文系に教養学部芸術学科 (免許教科: 音楽・美術) の学生が含まれているためであると考えられる。さらに「⑭実技能力」では、体育系の選択率が高く (1%水準)、文系と理系の選択率は低い (1%水準)。体育という免許教科の特徴が表れていると考えられる。

4. 教師イメージ

教職課程を履修している学生は、教師についてどのようなイメージをもっているのだろうか。アンケートでは、教師イメージとして次の14項目を設定し、それぞれに対し「とても思う」「やや思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4つの選択肢からひとつ回答を求めた（問8）。表4-1は全体の選択状況を示したものである（「肯定者（肯定率）」は「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計）。

- ①教師という仕事は人間的接触が大きい……………（人間的接触が大きい）
- ②仕事の内容が創造的であり、発展性をもっている……………（創造的で発展性がある）
- ③自分の勉強したことが直接活かせる……………（勉強が活かせる）
- ④研究的に仕事を進めていくことができる……………（研究的な仕事）
- ⑤社会的に評価されている……………（社会的評価が高い）
- ⑥経済的に生活が安定している……………（経済的に安定している）
- ⑦他の職業に比べて勤務条件が恵まれている……………（勤務条件がよい）
- ⑧児童や生徒の問題についての責任が重すぎる……………（責任が重い）
- ⑨関わりのある世界が限られていて視野が狭い……………（視野が狭い）
- ⑩上からの権威に弱い……………（権威に弱い）
- ⑪考え方や行動が保守的である……………（保守的）
- ⑫家に仕事を持ち帰るなど生活上の公私の区別がつきにくい……………（公私の区別がない）
- ⑬全体としてのイメージが野暮ったい……………（野暮ったい）
- ⑭採用にあたっての可否の基準が不明確である……………（採用基準が不明確）

表4-1 教師イメージ

(N=523)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	不明・無回答	肯定率
①人間的接触が大きい	446 (85.3%)	47 (13.8%)	4 (0.8%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	518 (99.0%)
②創造的で発展性がある	170 (32.5%)	288 (55.1%)	62 (11.9%)	3 (0.6%)	0 (0.0%)	458 (87.6%)
③勉強が活かせる	212 (40.5%)	233 (44.6%)	73 (14.0%)	4 (0.8%)	1 (0.2%)	445 (85.1%)
④研究的な仕事	87 (16.6%)	256 (48.9%)	166 (31.7%)	13 (2.5%)	1 (0.2%)	343 (65.6%)
⑤社会的評価が高い	82 (15.7%)	232 (44.4%)	192 (36.7%)	16 (3.1%)	1 (0.2%)	314 (60.0%)
⑥経済的に安定している	114 (21.8%)	281 (53.7%)	118 (22.6%)	10 (1.9%)	0 (0.0%)	395 (75.5%)
⑦勤務条件がよい	28 (5.4%)	122 (23.2%)	280 (53.5%)	92 (17.6%)	1 (0.2%)	150 (28.7%)
⑧責任が重い	196 (37.5%)	238 (45.5%)	84 (16.1%)	4 (0.8%)	1 (0.2%)	434 (83.0%)
⑨視野が狭い	48 (9.2%)	173 (33.1%)	246 (47.0%)	56 (10.7%)	0 (0.0%)	221 (42.3%)
⑩権威に弱い	101 (19.3%)	231 (44.2%)	165 (31.5%)	23 (4.4%)	3 (0.6%)	332 (63.5%)
⑪保守的	84 (16.1%)	252 (48.2%)	163 (31.2%)	22 (4.2%)	2 (0.4%)	336 (64.2%)
⑫公私の区別がない	125 (23.9%)	231 (44.2%)	146 (27.9%)	20 (3.8%)	1 (0.2%)	356 (68.1%)
⑬野暮ったい	13 (2.5%)	83 (15.9%)	339 (64.8%)	87 (16.6%)	1 (0.2%)	96 (18.4%)
⑭採用基準が不明確	45 (8.6%)	221 (42.3%)	219 (41.9%)	37 (7.1%)	1 (0.2%)	266 (50.9%)

※ 肯定率は「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計。

肯定率をみると、ほぼ全ての回答者が「①人間的接触が大きい」（99.0%）というイメージをもっており、しかも85%の回答者が「とても思う」を選択している。これに次いで、「②創造的で発展性がある」（87.6%），

表 4-2 教師イメージ (免許系列別)

①人間的接触が大きい (p 値 0.1550)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	139 (84.2%)	24 (14.5%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	163 (98.8%)
理 系 (n=114)	90 (78.9%)	22 (19.3%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	112 (98.2%)
体育系 (n=244)	217 (88.9%)	26 (10.7%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	243 (99.6%)

(p 値)

②創造的で発展性がある (p 値 0.0000)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	39 (23.6%)	99 (60.0%)	26 (15.8%)	1 (0.6%)	138 (83.6%)
理 系 (n=114)	24 (21.1%)	65 (57.0%)	24 (21.1%)	1 (0.9%)	89 (78.1%)
体育系 (n=244)	107 (43.9%)	124 (50.8%)	12 (4.9%)	1 (0.4%)	231 (94.7%)

③勉強が活かせる (p 値 0.0000)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	59 (35.8%)	76 (46.1%)	27 (16.4%)	3 (1.8%)	135 (81.8%)
理 系 (n=114)	32 (28.1%)	54 (47.4%)	27 (23.7%)	1 (0.9%)	86 (75.4%)
体育系 (n=243)	121 (49.6%)	103 (42.2%)	19 (7.8%)	0 (0.0%)	224 (91.8%)

④研究的な仕事 (p 値 0.0106)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	22 (13.3%)	76 (46.1%)	59 (35.8%)	8 (4.8%)	98 (59.4%)
理 系 (n=113)	19 (16.7%)	47 (41.2%)	44 (38.6%)	3 (2.6%)	66 (57.9%)
体育系 (n=244)	46 (18.9%)	133 (54.5%)	63 (25.8%)	2 (0.8%)	179 (73.4%)

⑤社会的評価が高い (p 値 0.4467)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	27 (16.4%)	78 (47.3%)	54 (32.7%)	6 (3.6%)	105 (63.6%)
理 系 (n=114)	13 (11.4%)	46 (40.4%)	51 (44.7%)	4 (3.5%)	59 (51.8%)
体育系 (n=243)	42 (17.2%)	108 (44.3%)	87 (35.7%)	6 (2.5%)	150 (61.5%)

⑥経済的に安定している (p 値 0.6753)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	36 (21.8%)	84 (50.9%)	42 (25.5%)	3 (1.8%)	120 (72.7%)
理 系 (n=114)	19 (16.7%)	68 (59.6%)	25 (21.9%)	2 (1.8%)	87 (76.3%)
体育系 (n=244)	59 (24.2%)	129 (52.9%)	51 (20.9%)	5 (2.0%)	188 (77.0%)

⑦勤務条件がよい (p 値 0.3840)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	8 (4.8%)	30 (18.2%)	96 (58.2%)	31 (18.8%)	38 (23.0%)
理 系 (n=114)	6 (5.3%)	24 (21.1%)	62 (54.4%)	22 (19.3%)	30 (26.3%)
体育系 (n=243)	14 (5.7%)	68 (27.9%)	122 (50.0%)	39 (16.0%)	82 (33.6%)

⑧責任が重い (p 値 0.9814)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	59 (35.8%)	75 (45.5%)	30 (18.2%)	1 (0.6%)	134 (81.2%)
理 系 (n=113)	43 (37.7%)	53 (46.5%)	16 (14.0%)	1 (0.9%)	96 (84.2%)
体育系 (n=244)	94 (38.5%)	110 (45.1%)	38 (15.6%)	2 (0.8%)	204 (83.6%)

⑨視野が狭い (p 値 0.4713)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	16 (9.7%)	63 (38.2%)	70 (42.4%)	16 (9.7%)	79 (47.9%)
理 系 (n=114)	16 (14.0%)	33 (28.9%)	52 (45.6%)	13 (11.4%)	49 (43.0%)
体育系 (n=244)	16 (6.6%)	77 (31.6%)	124 (50.8%)	27 (11.1%)	93 (38.1%)

⑩権威に弱い (p 値 0.7292)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=164)	38 (23.0%)	67 (40.6%)	53 (32.1%)	6 (3.6%)	105 (63.6%)
理 系 (n=114)	21 (18.4%)	51 (44.7%)	35 (30.7%)	7 (6.1%)	72 (63.2%)
体育系 (n=242)	42 (17.2%)	113 (46.3%)	77 (31.6%)	10 (4.1%)	155 (63.5%)

⑪保守的 (p 値 0.0850)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=163)	32 (19.4%)	78 (47.3%)	45 (27.3%)	8 (4.8%)	110 (66.7%)
理 系 (n=114)	23 (20.2%)	53 (46.5%)	33 (28.9%)	5 (4.4%)	76 (66.7%)
体育系 (n=244)	29 (11.9%)	121 (49.6%)	85 (34.8%)	9 (3.7%)	150 (61.5%)

⑫公私の区別がない (p 値 0.0433)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	46 (27.9%)	80 (48.5%)	30 (18.2%)	9 (5.5%)	126 (76.4%)
理 系 (n=114)	23 (20.2%)	48 (42.1%)	39 (34.2%)	4 (3.5%)	71 (62.3%)
体育系 (n=243)	56 (23.0%)	103 (42.2%)	77 (31.6%)	7 (2.9%)	159 (65.2%)

⑬野暮ったい (p 値 0.3614)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=164)	5 (3.0%)	33 (20.0%)	102 (61.8%)	24 (14.5%)	38 (23.0%)
理 系 (n=114)	2 (1.8%)	18 (15.8%)	79 (69.3%)	15 (13.2%)	20 (17.5%)
体育系 (n=244)	6 (2.5%)	32 (13.1%)	158 (64.8%)	48 (19.7%)	38 (15.6%)

⑭採用基準が不明確 (p 値 0.4144)

	とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	肯定者 (肯定率)
文 系 (n=165)	13 (7.9%)	76 (46.1%)	70 (42.4%)	6 (3.6%)	89 (53.9%)
理 系 (n=113)	8 (7.0%)	45 (39.5%)	49 (43.0%)	11 (9.6%)	53 (46.5%)
体育系 (n=244)	24 (9.8%)	100 (41.0%)	100 (41.0%)	20 (8.2%)	124 (50.8%)

「③勉強が活かせる」(85.1%)、「⑧責任が重い」(83.0%)が80%台の肯定率で続いている。ただし、「①人間的接触が大きい」以外の項目は「とてもそう思う」よりも「ややそう思う」の選択率の方が高く、どちらかといえば消極的に肯定している印象を受ける。その意味において「①人間的接触が大きい」の積極的な肯定は特筆に値するといえよう。

なお、これら14項目は、①から⑦までが肯定的なイメージで構成されているのに対し、⑧から⑭までは否定的なイメージで構成されている。①から⑦までの7項目の肯定率は71.6%、⑧から⑭の7項目の肯定率は55.7%であり、3年次の教職課程履修者は、教師に対して比較的肯定的なイメージをもっているといえる。

ところで、このような教師イメージは、免許教科による3つの集団によって異なるのだろうか。表4-2の①から⑭は14の教師イメージの選択状況を3つの集団ごとに示したものである（「肯定者（肯定率）」は「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計）。肯定率をみると、「②創造的で発展性がある」で体育系の高さ（94.7%）と理科系の低さ（78.1%）が認められ、「③勉強が活かせる」でも体育系の高さ（91.8%）と理科系の低さ（75.4%）が認められる。また、「④研究的な仕事」で体育系の高さ（73.4%）、「⑫公私の区別がない」で文系の高さ（76.4%）が認められる。カイ二乗検定の結果、これらの項目については、有意な差が確認された。残差分析の結果「②創造的で発展性がある」において「とても思う」と回答した者は、体育系でその割合が高く、文系と理系では低いことが認められ、「あまり思わない」と回答した者では、理系でその割合が高く、体育系では低いことが確認された（いずれも1%有意）。また、「③勉強が活かせる」において「とても思う」と回答した者では、体育系でその割合が高く、理系で低いことが認められ、それとは逆に「あまり思わない」と回答した者では、理系でその割合が高く、体育系において低い（いずれも1%有意）。さらに、「④研究的な仕事」についてみると、「やや思う」と回答した者は体育系に多く（5%有意）、「あまり思わない」と回答した者では体育系の割合が低い（1%有意）。これにくわえて、「④研究的な仕事」では、「全く思わない」と回答した者の割合が文系で高く、体育系では低い（5%有意）。このような結果から、特に、体育系の学生が、教師に対する肯定的なイメージを強く抱いていることがみてとれよう。

5. 教職の魅力と教職への志望

表 5-1 教職の魅力度

	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	全く感じない	肯定者（肯定率）
文 系（n=165）	71（43.0%）	77（46.7%）	17（10.3%）	0（0.0%）	148（89.7%）
理 系（n=114）	56（49.1%）	52（45.6%）	6（5.3%）	0（0.0%）	108（94.7%）
体育系（n=244）	97（39.8%）	125（51.2%）	21（8.6%）	1（0.4%）	222（91.0%）
合 計（N=523）	224（42.8%）	254（48.6%）	44（8.4%）	1（0.2%）	478（91.4%）

教職課程を履修している3年次生は、教職（教師の仕事）にどの程度の魅力を感じているのだろうか。

アンケートでは、教師という仕事（教職）への魅力について、「とても感じる」「やや感じる」「あまり感じない」「全く感じない」の5つの選択肢から1つ選択してもらった（問9）。表5-1はその回答状況を示したものである（「肯定者（肯定率）」は「とても感じる」と「やや感じる」の合計。）。。

回答者全体の教職への魅力に対する肯定率はおおよそ90%程度あり、ほとんどの学生が魅力を感じている。免許系列による3つの集団ごとにみても、ほぼ同程度の肯定率を示している。特に、理系の回答者では「とても感じる」（49.1%）を選択した者の割合が、「やや感じる」（45.6%）を超えており、他の2つ集団に比べて高い傾向がみられる。ただし、カイ二乗検定の結果、3つの集団に有意な差は見られなかった（p値0.4842）。

その一方で、1割程度の学生が教職に魅力を感じていないこともうかがえる。教職に魅力を感じていない学生が教育実習を経て魅力を感じるようになる可能性があるとはいえ、こうした意識を抱えた学生を受け入れる実習校の教職員や生徒の立場からとらえたとき、問題がないとは言えないだろう。

表 5-2 教職への志望度

	とても教職に つきたい	できれば教職に つきたい	何ともいえない	あまり教職に つきたくない	全く教職に つきたくない
文 系 (n=165)	49 (29.7%)	55 (33.3%)	47 (28.5%)	11 (6.7%)	3 (1.8%)
	104 (63.0%)			14 (8.5%)	
理 系 (n=114)	49 (43.0%)	27 (23.7%)	26 (22.8%)	12 (10.5%)	0 (0.0%)
	47 (66.7%)			12 (10.5%)	
体育系 (n=244)	69 (28.3%)	70 (28.7%)	76 (31.1%)	19 (7.8%)	10 (4.1%)
	139 (57.0%)			29 (11.9%)	
合 計 (N=523)	167 (31.9%)	152 (29.1%)	149 (28.5%)	42 (8.0%)	13 (2.5%)
	319 (61.0%)			55 (10.5%)	

しかし、教職に魅力を感じているからといって、教職を志望しているとはかぎらない。では、回答者は教職をどのくらい志望しているのだろうか。アンケートでは、教職への志望の度合いを、「とても教職につきたい」「できれば教職につきたい」「なんともいえない」「あまり教職につきたくない」「全く教職につきたくない」の5つの中から1つ選択してもらった（問10）。表5-2はその回答状況を示したものである。

これをみると、全体としては60%程度の回答者が教職を志望しており、90%程度であった教職への魅力の肯定率と比べると低い傾向が示されている。免許教科による3つの集団を比較すると、「とても教職につきたい」を選択した者は理系の回答者に多い傾向がうかがえる。カイ二乗検定の結果、3つの集団には有意な差がみられた。残差分析の結果、「とても教職につきたい」で理系が、「全く教職につきたくない」で体育系が、他の集団に比べて選択率が高い（5%有意）。

また、この結果では、全体で10%の回答者が、3年次まで継続して教職課程を履修しているにもかかわらず、教職につくことを望んでいない（「あまり教職につきたくない」＋「全く教職につきたくない」）。こうした数値は、教職に魅力を感じていない者の割合とほぼ一致するが、はたして教職につくことを望んでいない学生は教職への魅力も感じていないのだろうか。この点について確認するために、教職の魅力度と教職への志望度の選択状況をクロス集計したものが表5-3である。

表 5-3 教職の魅力度と教職への志望度の選択状況（N=523）

志望度 魅力度	とても教職に つきたい	できれば教職に つきたい	何ともいえない	あまり教職に つきたくない	全く教職に つきたくない
とても感じる	144 (27.5%)	59 (11.3%)	19 (3.6%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)
やや感じる	23 (4.4%)	93 (17.8%)	113 (21.6%)	21 (4.0%)	4 (0.8%)
あまり感じない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (3.3%)	20 (3.8%)	7 (1.3%)
全く感じない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)

※ %は回答者全員（523人）に占める割合

表5-3によれば、教職につくことを望んでいる者（「とても教職につきたい」＋「できれば教職につきたい」）は、全員が教職に魅力を感じている（「とても感じる」＋「やや感じる」）。一方で、教職につくことを望んでいない者（「あまり教職につきたくない」＋「全く教職につきたくない」）をみると、たしかに半数程度は教職に魅力を感じていない者（「あまり感じない」＋「全く感じない」）である。しかしながら、一方で、教職につくことを望んでいないにもかかわらず、教職に魅力を感じている者が半数程度いるのも事実である。また、教職につくことに迷っている者（「何ともいえない」）には教職に魅力を感じている者が多い。今日教職につくことを迷っている者や教職につくことを望んでいない者は、何を理由にそのような選択をしたのだろうか。

アンケートでは、教職につくことを積極的には望んでいないと回答した者（「何ともいえない」＋「あまり教

職につきたくない」＋「全く教職につきたくない」) に対しては、次の7つの項目から2つ以内でその理由を答えてもらった(問11)。表5-4はその結果を示したものである(無回答・不明を除く)。

- ①自分の進路をまだ決めかねているから……………(進路未決定)
- ②もともと教職志望はなかったから……………(教職志望なし)
- ③自分の教師への適性に自信がないから……………(適性への不安)
- ④教育問題が深刻で、自分でやり通せるか自信がないから……………(深刻な教育問題)
- ⑤仕事としてやりたいことが他にあるから……………(他にやりたい仕事)
- ⑥教職の採用人数が少ないから……………(採用人数が少ない)
- ⑦その他……………(その他)

表5-4 積極的に教職につくことを望まない理由(志望度別)

	何ともいえない (n=148)	あまり教職に つきたくない (n=42)	全く教職に つきたくない (n=13)	合計 (n=203)
①進路未決定	68 (45.9%)	9 (21.4%)	2 (15.4%)	79 (39.1%)
②教職志望なし	8 (5.4%)	6 (14.3%)	6 (46.2%)	20 (9.9%)
③適性への不安	58 (39.2%)	24 (57.1%)	6 (46.2%)	88 (43.6%)
④深刻な教育問題	13 (8.8%)	15 (35.7%)	2 (15.4%)	30 (14.9%)
⑤他にやりたい仕事	65 (43.9%)	20 (47.6%)	5 (38.5%)	90 (44.6%)
⑥採用人数が少ないから	14 (9.1%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	15 (7.4%)
⑦その他	5 (3.4%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	6 (3.0%)

(無回答・不明を除く)

表5-5 積極的に教職につくことを望まない理由(免許別)

	文 系 (n=60)	理 系 (n=38)	体育系 (n=105)	全 体 (n=203)
①進路未決定	17 (28.3%)	15 (39.5%)	47 (44.8%)	79 (38.9%)
②教職志望なし	4 (6.7%)	3 (7.9%)	13 (12.4%)	20 (9.9%)
③適性への不安	31 (51.7%)	18 (47.4%)	39 (37.1%)	88 (43.3%)
④深刻な教育問題	11 (18.3%)	7 (18.4%)	12 (11.4%)	30 (14.8%)
⑤他にやりたい仕事	29 (48.3%)	18 (47.4%)	43 (41.0%)	90 (44.3%)
⑥採用人数が少ない	3 (5.0%)	1 (2.6%)	11 (10.5%)	15 (7.4%)
⑦その他	2 (3.3%)	1 (2.6%)	3 (2.9%)	6 (3.0%)

(無回答・不明を除く)

全体としてみると、「①進路未決定」(79人, 39.1%), 「③適性への不安」(88人, 43.6%), 「⑤他にやりたい仕事」(90人, 44.6%)を理由として挙げるものが多い。ただし、志望度別にみると、教職につくことを迷っている者(「何ともいえない」)の場合、教職につくことを望んでいない者(「あまり教職につきたくない」＋「全く教職につきたくない」と比較して、「①進路未決定」(45.9%)を理由とするものが多く、職業選択の一つとして教職をとらえていると考えられる。これに対して、「あまり教職につきたくない」と回答した者は、「③適性への不安」(57.1%), 「④深刻な教育問題」(35.7%)を理由とするものが他の2集団と比べて多く、学校の現状や学校をとりまく状況に比較的影響を受けているといえよう。「全く教職につきたくない」者は、当然のことながら、他の2集団と比べて「②教職志望なし」(46.2%)を選択したものが多い。

なお、免許系列による3集団ごとに積極的に教職につくことを望まない理由は、表5-5のとおりである。

おわりに

以上、東海大学の教職課程を履修している3年次生が抱えている教師観、教職観の一端を、アンケート結果に基づきながら示した。

自己認識においては、「責任感」を筆頭に、各項目での自己評価として肯定的評価が高い傾向が見られた。また、教師に必要な力量においては、「授業力」と「積極的関わり」を中心とした、授業と生徒とのコミュニケーションにかかわる点に意識が集まっている傾向がみられる。教師イメージについては、全体的な傾向として、「人間的接触が大きい」、「創造的で発展性がある」、「勉強が活かせる」という肯定的なイメージを持つ一方で、「児童・生徒の問題についての責任が重すぎる」とも感じている傾向がうかがえる。教職への魅力や志望については、全体的に高い魅力度・志望度にある傾向がみられるが、一部に魅力を感じておらず、教職志望も低い学生が存在することが確認された。ただし、全く教職につきたくない者を除けば、その理由として進路未決定や適性への不安、深刻な教育問題を挙げる者が多いといえる。

こうした傾向を1年次の調査結果と比較すると、以下のような傾向がみられる。第一に、自己認識に関して言えば、1年次調査結果と比較すると、肯定的評価が強まっている傾向がうかがえる。第二に、教師に必要な力量について、1年次の調査結果と比べると、特に「授業力」の割合が増加しているとともに、免許教科による3つの集団が均質化している傾向もうかがえる。第三に、教師イメージに関する傾向は、1年次の調査結果と同様であるが、1年次において肯定的選択率の高かった項目ではその割合が10ポイント程度増加している（「人間的接触が大きい」を除く）。とはいえ、1年次の調査と3年次の調査では、調査対象者の重複はあるものの、母集団が異なる。そのため、1年次と3年次の相違が、学年進行による変化なのか、あるいは母集団の違いによるものなのかは判断としない。学年による相違を検討するためには、1年次と3年次の両調査にともに回答した学生に限定した比較を行う必要がある。この点については今後の課題である。

〔付記〕

本稿は、2010年度東海大学学部等研究教育補助金による調査の成果である。

注

- 1) 大島宏・小野寺綾子「東海大学教職課程履修者の教師観・教職観——1年次生を中心として——」『東海大学課程資格教育センター論集』第8号、2010年3月。
- 2) なお、「文系」に分類した学部・学科は文学部、政治経済学部、法学部、教養学部（人間環境学科社会環境課程、芸術学科音楽学課程、芸術学科美術学課程）、健康科学部（社会福祉学科）。「理系」に分類した学部・学科は理学部、情報理工学部、工学部、教養学部（人間環境学科自然環境課程）。「体育系」に分類した学部・学科は体育学部。